



菅波 茂

9月27日(土)の3日間。スイスのジュネーブにある国連難民高等弁務官事務所(UNHCR)本部で開催された支援国会議に先行した非政府組織(NGO)会議に参加した。貴重な機会を提供していただいたUNHCR駐日地域事務所と難民事業本部に感謝したい。

UNHCRの抱えている最大の問題の一つは実施団体であるNGOの大多数が欧米の国際NGOであることだ。イスラム関係のNGOを除くとアジアのNGOの参加が少なく、何れも困っていることはアジアのNGOの特徴がわかちたいところだ。このことは94年のオスロ宣言でも述べられてくる。「UNHCRと欧米の国際NGOは発展途上国のNGOと連携する必要が。ほむほむ、UNHCRと欧米の国際NGOは難民キャンプを撤退させることには

あから」と。しかし、アジアのNGOの特徴が理解できないことは、「北と南の連携」のスローガンである、欧米の国際NGOとアジアのNGOとの連携が不可能なことを意味している。私はそう解釈している。

私に与えられたテーマは欧米の国際NGOが理解できる「アジアのNGOの特徴」であった。五つのキーワードで説明をした。最初のキーワードは「フレンドシップ」とした。人間関係には3種類がある。「フレンドシップ」、「スポンサーシップ」、そして「パートナーシップ」である。アジアのNGOは何故に他人を助けるのか。「フレンドシップ」無償でして支援活動が始まる。「パートナーシップ」の人間関係になる。「パートナーシップ」は困難を共にする人間関係と説明した。アジアでは長い歴史をもった人間の誇りと

## 「西のジュネーブ、東の岡山」の実現へ

尊敬を破壊するスポンサーシップが一番危険である。スポンサーシップとパートナーシップの決定的な違いはローカルユニシアチブにある。欧米の国際NGOの活動はローカルユニシアチブの無いスポンサーシップになりがちである。気をつけるべし。ローカルユニシアチブとは、簡単に言えば、「ローマにおいてローマ人の如く行なう」である。

二つめのキーワードは「相互扶助」とした。困った時はお互いさま。時系列的にお互いに助け合うからパートナーシップが成立することになる。「フレンドシップ」が「パートナーシップ」に変化する理論的説明である。三つめのキーワードは「平和」。四つめのキーワードは「ローカルユニシアチブ」。五つめは「ユニティ」だった。私が驚いたことば、私のフレンドシップとパートナーシップの定義に会場のNGOから賛同の意見やコメントがたくさん出たことに加えて、UNHCRのNGOユニット担当者から来年の課題として議論を継続したいとの感想をいただいたことである。付記すれば、定義の明確でない言葉の羅列からは、94年に提唱されたオスロ宣言にある「北と南の連携」の構築は不可能であると思った。

94年から提唱している「西のジュネーブ、東の岡山」のスローガン。オスロ宣言にある「北と南の連携」の構築は、AMDAによる言葉の定義とAMDAが代表するアジアのNGOの役割によって実現する可能性があることと確信を持った。国際貢献トピアの10年間の活動による「県国際貢献活動の推進に関する条例」の制定など環境は整備されてきている。いよいよAMDAジュネーブ事務所設置による積極的な国連外交の時が来る。皆様のご支援をお願いしたい。アジア医師連絡協議会代表者